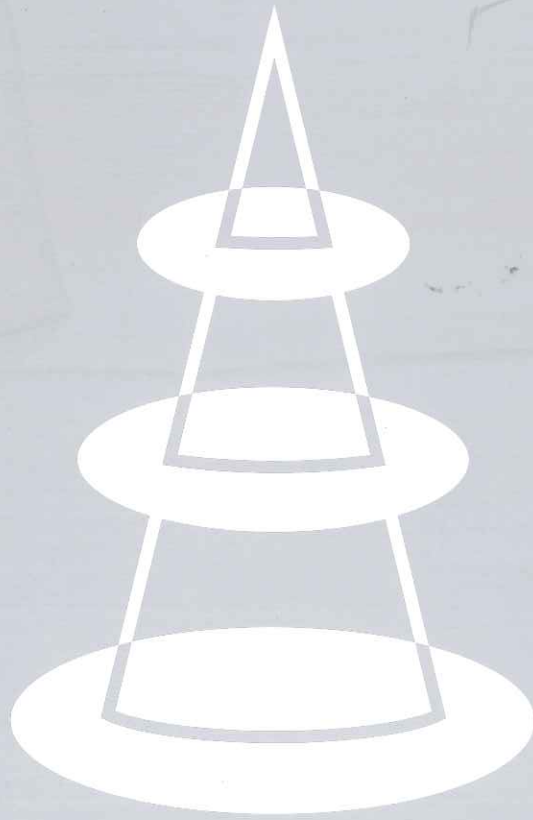


あしたの街は私がつくる





1998長崎市都市景観賞

ごあいさつ



長崎市都市景観賞 表彰実行委員会委員長
伊藤 一長

1998長崎市都市景観賞並びに都市景観賞奨励賞を受賞された関係者の皆様に、心よりお祝いを申し上げます。

昭和62年に発足した本賞も、今回で記念すべき10回目を迎えることができました。これもひとえに関係者の皆様と市民の皆様のご支援の賜物でございます。

さて長崎市は、アーバン・ルネッサンス2001構想や女神大橋建設、さらには日蘭修好400周年に合わせた出島の復元・整備計画など21世紀へ向けた事業が進められており、都市の景観は大きく変わろうとしております。

また一方では、まちづくりに関する話題がマスメディアにたびたび取り上げられるなど、都市景観や環境に対する関心がますます高くなっております。

最近では、「住みよい便利なまち」から「気持ちよいまち」へ、さらには「まちが心を癒す＝シティセラピー」(city-therapy)へと話題が進んでいるようです。

このようななかで、今回の受賞作品は、都市景観賞の主旨である「自然環境を生かし、歴史的な文化遺産を継承しながら、人間のふれあいのある都市、洗練されたまちづくり」に沿って、特に水や緑といった自然のすばらしさや、歴史的な文化の継承と融合の大切さを示してくれたものが選ばれました。

市民の皆様にはこれを機会に、地域に調和した景観とは何か、長崎らしさとは何かを今一度振り返っていただき、都市景観に対してさらに関心を持っていただきたいと考えております。そして世代を超えた魅力ある都市長崎にしていきたいと思っております。

最後に、ご応募していただきました多くの市民の皆様また、ご尽力いただきました選考委員の皆様にも、深く感謝申し上げます。

今後とも、本賞が長崎らしいまちづくりの一翼を担うものとして、また関係者の励みとなることを願ひまして挨拶いたします。



長崎商工会議所会頭
野崎 元治

1998長崎市都市景観賞ならびに都市景観賞奨励賞を受賞されました皆様、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

また、今回の募集にご協力頂きました皆様に深く感謝申し上げます。

さて当地長崎は、鎖国時代、海外に開かれたわが国唯一の窓として、内外から人々を集め、多様な文物の交流拠点として栄え、その後も同時に築かれた土台を基に発展を遂げてきました。

このように、長崎の街は長崎特有の歴史・文化を背景とし、港を中心に斜面に囲まれた独特の地形を活かして形成されて参りましたが、近年では、こういった歴史的・地形的な要素に新たな要素を加味した長崎らしい景観づくりへの取り組みが、官民双方から始まっています。

具体的には、NUR2001構想の長崎港を中心とした地域や長崎特有の斜面市街地再生事業地区においても、旧来の長崎らしい景観の概念を加え、高齢者や環境への配慮といった新たな要素を加味した景観形成が進められております。

1987年よりスタートいたしましたこの賞は、今回で10回目を迎え、これまでの数多くの表彰作品が街中で市民の皆様にも再認識されるようになりました。近年の表彰作品に新しい長崎らしさを予感させるものが見受けられるようになって参りましたことは、街づくりの観点から喜ばしい傾向であると存じます。

今回受賞された作品も、今後の長崎の景観形成に先導的役割を果たしていただけるものと確信いたしております。

長崎市都市景観賞は市民の皆様から推薦された作品が受賞対象となるといった意味で、市民の皆様への景観に対する関心度の指針となるものです。今後とも、この賞が、市民の皆様への都市景観や街づくりに対する関心をより一層深めていただく機会となることをご期待申し上げます。

最後に、本事業の実施にあたってご尽力頂きました関係各位、選考委員の皆様へお礼を申し上げます。ご挨拶いたします。

自然環境を生かし、歴史的な文化遺産を継承しながら、人間のふれあいのある都市、洗練されたまちづくりに寄与する建築物等に対して贈られる賞です。



選考を終えて
長崎市都市景観賞
選考委員会座長
宮川 密義

1998長崎市都市景観賞ならびに都市景観賞奨励賞を受賞された関係者の皆様に、心からお祝いの言葉を申し上げます。

1998長崎市都市景観賞は応募総数が例年の3倍近い259点に及びました。これは第10回という節目を迎えたことと、事務当局の積極的な取り組みによる効果と思われませんが、本賞に対する市民の関心が例年以上に高まり、理解もいっそう深まったことの表れに違いなく、ご同慶に堪えません。

選考対象はレベル的には平均的な作品が揃っていた半面、「歴史のある部門」以外では景観賞に値する“決定打”が出なかったのは残念です。しかし、全体に緑の空間を形成する“植栽重視”の傾向が感じられたことは大きな収穫でした。

「小さな建物部門」では、通りに面した垣根や庭の植栽などに細かな配慮（都市景観賞奨励賞の『岩永邸』）が見られ、「大きな建物部門」でも長崎らしいデザインに加えて、植え込みや中庭の形成、フラワーポットも活用して緑化に工夫を凝らす（都市景観賞奨励賞の『ホテルモントレ長崎』）など、景観を意識した努力。その他、狭い土地を最大限活用しながら、少しでも緑に潤いを求めようとする“ささやかな貢献”も見られました。

「テーマ部門」で都市景観賞奨励賞（四季プロムナード賞）に選ばれた『サントス通り』に見るように、街づくりに緑は不可欠であり、緑に対する意識の高まりを歓迎し、伸ばしていきたいものです。

一方、公共施設では残念ながら緑に対する配慮に十分とはいいたいがたいものがありました。大型施設に添えられたせつかくの植え込みがメンテナンスの不備で枯れ木をさらしていたり、自然美を売り物にしているはずの施設に木陰が皆無に近かったり…。植栽には経年効果が期待できるとしても、緑を伴う景観形成への市民の思いが高まりを見せ始めた今、行政当局の積極的なリーダーシップが強く求められるところであります。

今回の都市景観賞は「歴史のある部門」で2件が選ばれました。ともに歴史的財産として長崎らしい雰囲気や漂わせております。「福砂屋本店」の場合、重厚な店構え、のれん、商標が歴史的景観として大変魅力的ですが、隣接する建物も往時の名残をとどめており、それをも視野に入れた評価となりました。貴重な文化遺産である歴史的建造物そのものの保存はもちろん、その周辺のたたずまいも“長崎らしい街づくり”の上で重要なポイントになることを改めて強く認識させられました。

さて、今回は第10回記念事業として「わがまち自慢」の選考も行いました。各校区単位に応募があった143件について現地調査を軸に選考致しましたが、さすが地域の人たちの自慢だけあって、それぞれに評価すべきものがありました。山頂や高台からの眺望、自然に伸びた樹木、夕焼け、夜景など自然の賜物、あるいは名所旧跡といった先人の遺産など。また、地域の皆さんが日常手入れを怠らず、四季折々の花や緑を育てて景観形成に貢献している例（千歳町の緑地帯）も印象に残りました。

選ばれた63件はパンフレットで紹介することになりますが、これを機に、市民各位に長崎の街の魅力が見直され、『景観の保全と創出』を目指す「長崎市都市景観賞」の役割が、新しい時代にふさわしい街づくりに寄与していくものと期待しております。

選考委員会

座長

宮川密義

長崎新聞社編集アドバイザー（マスコミ）

委員

芥寛

（社）長崎県建築士事務所協会長崎支部 副支部長（建築）

井川惺亮

長崎大学教育学部教授（美術）

後田美穂

リブながさき副編集長（マスコミ）

岡林隆敏

長崎大学工学部教授（土木工学）

津田桂子

わらべ文庫主宰（文学）

津田礼子

活水女子短期大学助教授（美学）

ディナ・ペルトー口野田

野田ゼミナール講師

林田米松

長崎県グリーン事業協同組合理事長（造園）

伴丈正志

長崎総合科学大学助教授（建築）

福丸秀一郎

商業デザイナー（美術）

北郷雅子

フラワーコーディネーター（デザイン）

宮原和明

長崎総合科学大学教授（建築）

山崎加代子

商業デザイナー（美術）

吉岡規子

（有）サンモーブ代表取締役（色彩）

吉原明俊

ながさきプレス編集長（マスコミ）



第10回
長崎市都市景観賞
1998

「歴史のある部門」

福砂屋本店



【選定理由】

花街丸山の入口界隈で、ひときわ往時の名残をとどめる建物が隣接している。カステラの老舗福砂屋と、いかにも古めかしい看板を掲げた大坪酒店のたたずまいは、歴史的景観として魅力的である。殊に、創業寛永元年（1624）ポルトガル人直伝による製法を受け継いでいる福砂屋の重厚な店構えや、のれんと商標は、長崎の街並みに歴史と伝統をしのばせている。商家の代表的建造物として、大切に保存し、カステラと同様に長崎の財産にしたいものである。

(津田 桂子)

所在地／長崎市船大工町3番1号
用途／店舗
階数／地上2階
構造／木造
完成年：明治20年

■所有者■
株式会社 福砂屋 代表取締役社長 殿村 高司
長崎市船大工町3番1号



第10回
長崎市都市景観賞
1998

『歴史のある部門』

児童養護施設 マリア園



【選定理由】

フランス人の設計で明治31年に建てられたロマネスク様式の赤レンガ造の修道院建築。南山手の洋館群の中でも、とくに絵になる建物で、荘厳な優しさに包まれている。ここに幼稚園があった当初と同じように、礼拝堂の美しいステンドグラスや庭の木々、それに、ここからの長崎港の眺めがすばらしい。現在もカトリック系児童養護施設として利用されているが、数少なくなったレンガ造の建物としていつまでも在って欲しい。

(北郷 雅子)

所在地：長崎市南山手町12番17号
用途：児童養護施設
階数：地上3階 地下1階
構造：レンガ造
完成年：明治31年

■所有者■
ショファイユの幼きイエズス修道会 日本管区本部修道院
宝塚市仁川高台2丁目1番37号



第10回
長崎市都市景観賞 奨励賞
1998

『大きな建物部門』
ホテルモントレ長崎



【選定理由】

タイル張りの低い塀には植栽があしらわれ、オリーブの小木も出迎える。この館はオレンジ色の瓦屋根をかぶり、漆喰調の外壁の内部にモザイク石を敷いた中庭など、ヨーロッパ的な質を囲んでいる。中庭に注ぐ光と風は、静かな非日常的な時を体験させ、四角く切り取られた空が長崎の街に新しく、また懐かしい。外観や内部空間の形、また素材やディテールに至るまで、人の心への作用を考えたこだわりが感じられる。

(津田 礼子)

所在地：長崎市大浦町1番22号
用途：ホテル
階数：地上7階
構造：鉄筋コンクリート造
延面積：4,673.45㎡
高さ：29.95m

■建築主■
ホテルモントレ株式会社 代表取締役会長 木下 勝弘
大阪市北区南森町2丁目4番4号
■設計者■
鹿島建設株式会社 代表取締役社長 梅田 貞夫
東京都港区元赤坂1丁目2番7号
■施工者■
鹿島建設株式会社九州支店 九州支店長常務取締役 大神 清
福岡市博多区博多駅前3丁目12番10号



第10回
長崎市都市景観賞 奨励賞
1998

『小さな建物部門』

岩永邸



【選定理由】

普段の生活から、自分の住む家を『景観の立場から考える』ということは、なかなかできないものだ。本受賞作は、その『景観の立場から考える』ことを、さりげなく、無理せずに努められたところが評価された。特に、家を囲う柵の概念を、美的な感覚で石垣を見事に表現されている点では、現代社会の住居空間作りの手本を示すものとなろう。これからの景観賞は、日常の生活から工夫されるものにこそ、必要となることだろう。

(井川 惺亮)

所在地：長崎市小江原町330番地95
用途：専用住宅
階数：地上2階
構造：木造
延面積：147.04㎡
高さ：8.55m

■建築主■
岩永 圭介
長崎市小江原町330番地95
■設計・施工者■
西九州ホーム株式会社 代表取締役社長 笠 晃
佐賀市駅前中央1丁目5番10号
■外構■
清光園 代表 浦川 石山
長崎市木場町1602番地



第10回
長崎市都市景観賞 奨励賞
1998

【小さな建物部門】
白髭内科医院



【選定理由】

山かげになって原爆の影響を受けなかった片淵あたりには、明治や大正の洋館、昭和初期の町家などがバラエティ豊かに残り、独特の雰囲気がある。この病院も建て替えられる前は洋館で、それを超える建物をと、かなり努力されたようだ。レンガ塀の向うには日本庭園があって待ち合い室から眺められ、3階には天井を開けた中庭があるなど、かなりの工夫が見られる。ただ、外からの『景観』という点からは、植栽に乏しいのが残念。(吉原 明俊)

所在地：長崎市片淵1丁目35番18号
用途：診療所
階数：地上3階
構造：鉄筋コンクリート造
延べ面積：207.89㎡
高さ：9.64m

■建築主■
白髭内科医院 院長 白髭 豊
長崎市片淵1丁目35番18号
■設計者■
有限会社 ジーアンドエム建築設計室 代表取締役 川口 洋
長崎市西山4丁目382番地1
■施工者■
株式会社 竹中工務店九州支店 取締役支店長 金岡 伸幸
福岡市中央区天神4丁目2番20号



【テーマ部門：四季プロムナード賞】
サントス通り



【選定理由】

サントス通りを歩くと安らぎを感じる。これといった景観のスポットはないが、この通りからの街並みは、被爆当時が回想されて感慨深いものがある。住民の一人一人が造り上げた素朴性が、安堵感を与えてくれる。散策するうちに、それとなく魅力が倍増してきて、不思議なくらい楽しさを与えてくれる。傾斜面にマッチしたスロープの道路や街路樹は、石垣（自然石）や住宅、住宅樹木と共に調和されていて、四季を通じてゆとりが感じられる。自然体に映えるまちづくりがなされ、賞賛に値する。しかし自然は生き物であるので、今後もきちんとした管理を願っている。

（林田 米松）

所在地：長崎市上野町、橋口町、岡町



第10回
長崎市都市景観賞 奨励賞
1998

『テーマ部門：自然賞』

善長谷教会とそこからの景色



【選定理由】

カラン、コロン…タブの大樹につるされた鐘が鳴る。夕方のミサが始まり教会の中から祈りの言葉が聞こえてくる。管々と続いてきた変わらぬ生活風景。眼下には炭鉱だった島々を望む大景観と出漁の漁船の音が遠くからボン、ボン…と聞こえてくる。都会人が忘れていたホットする癒しの空間がそこにある。

(宮原 和明)

所在地：長崎市大籠町善長

■所有者■

宗教法人 カトリック長崎大司教区 大司教 島本 要
長崎市上野町10番34号

長崎市都市景観賞受賞作品

第1回 (1987)

長崎市都市景観建築賞



活水女子大学・短期大学 音楽館・2号館 (東山手町)



カロムビル (浜町)



松翁軒 (魚の町)



フォーレ三原台 (三原町)



中華門 (新地町)

第2回 (1989)

長崎市都市景観建築賞



活水学院櫛光寮 (小ヶ倉2丁目)



小ヶ倉公営住宅 (古道町)



蛸茶屋から新大工までの電車通り・電気軌道中央柱



山里小学校 (橋口町)



シーボルト記念館 (鳴滝2丁目)

第3回 (1991)

長崎市都市景観賞



川口躰甲店 (浜町)



シーボルト通り (新大工町)



泉写真館 (川口町)



月光スタジオ看板 (南窓ボード) (桜馬場1丁目)



長崎プリンスホテルポケットパーク (宝町)

長崎市都市景観賞奨励賞

長崎市都市景観賞受賞作品

第4回 (1992)

長崎市都市景観賞



海星修道院 海星学園図書館 (東山手町)



小ヶ倉水園 (上戸町：小ヶ倉浄水場内)



矢上小学校現川分校 (現川町)

長崎市都市景観賞奨励賞



坂本龍馬之像 (銅像)
(伊良林3丁目：風頭公園内)

第5回 (1993)

長崎市都市景観賞



金子建設株式会社本社ビル (松山町)



県営大橋団地・市営若葉団地 (大橋町、若葉町)



湊公園 (新地町)

長崎市都市景観賞奨励賞



復元唐船「飛帆」

第6回 (1994)

長崎市都市景観賞奨励賞



長崎県立総合体育館 (油木町)



長崎横尾郵便局 (横尾1丁目)

長崎市都市景観賞受賞作品

第7回 (1995)

長崎市都市景観賞



「大きな建物部門」
長崎電気ビル (城山町)



「歴史のある部門」
常岡歯科診療所 (油屋町)



「テーマ部門：歴史ロマン賞」
龍馬のぶっ (伊良林2丁目)

長崎市都市景観賞奨励賞



「小さな建物部門」
林兼石油株式会社浦上給油所 (松山町)

第8回 (1996)

長崎市都市景観賞



「小さな建物部門」
三宅脳神経外科医院 (若草町)



「歴史のある部門」
岩永梅寿軒 (諏訪町)



「テーマ部門：建築エコアップ賞」
販橋パーキングセンター (栄町)

長崎市都市景観賞奨励賞



「大きな建物部門」
長崎女子高等学校記念体育館 (中小島2丁目)



「テーマ部門：四季プロムナード賞」
文教通り (文教町、大橋町)

第9回 (1997)

長崎市都市景観賞



「大きな建物部門」
長崎市科学館 (油木町)



「歴史のある部門」
宝製網株式会社 (小管根町)



「歴史のある部門」
深堀の石獅群 (深堀地区)

長崎市都市景観賞奨励賞



「小さな建物部門」
高野眼科医院 (平野町)



「テーマ部門：ベイスайдシンボル賞」
三菱長崎造船所クレーン・ライトアップ (鮎の浦町)



矢上小学校
現川分校
(1992)

シーボルト記念館
(1989)

龍馬のぶーつ
(1995)

坂本龍馬之像
(1992)

常岡歯科診療所
(1995)

長崎女子高等学校
記念体育館 (1996)

大浦中学校

深堀の石塀群
(1997)

善長谷教会とそこからの景色
(1998)

長崎横尾郵便局
(1994)

長崎県立総合体育館
(1994)

長崎市科学館
(1997)

岩永邸
(1998)

三宅脳神経外科医院
(1996)

長崎電気ビル
(1995)

泉写真館
(1991)

長崎プリンスホテル
ポケットパーク (1991)

復元唐船「飛帆」
(1993)

三菱造船所
クレーンライトアップ
(1997)

ホテルモンテレ長崎
(1998)

宝製綱株式会社
(1997)

児童養護施設マリア園
(1998)

小ヶ倉水園
(1992)

活水学院楠光寮
(1989)

小ヶ倉公営住宅
(1989)

三菱香焼工場

深堀の石塀群
(1997)

深堀小学校

善長谷教会とそこからの景色
(1998)

至野母崎

至三重

至時津

至諫早

道の尾

赤迫

交通公園

桜が丘小学校

浦上駅

長崎駅

市役所

公会堂

松翁軒
(1987)

賑橋パーキング
センター (1996)

川口龍甲店
(1991)

中華門
(1987)

漢公園
(1993)

活水女子大学・短期大学
音楽館・2号館 (1987)

海星修道院
海星学園図書館
(1992)

福砂屋本店
(1998)

長崎女子高等学校
記念体育館 (1996)

大浦中学校

至田上

至諫早

至三重

長崎バイパス

長崎トンネル

西山トンネル

シーボルト通り
(1991)

月光スタジオ看板
(1991)

堂茶屋から新大工までの
電車通り・電気軌道中央柱
(1989)

日見トンネル

岩永梅寿軒
(1996)

龍馬のぶーつ
(1995)

坂本龍馬之像
(1992)

常岡歯科診療所
(1995)

福砂屋本店
(1998)

長崎女子高等学校
記念体育館 (1996)

大浦中学校

至田上

至諫早

至三重

至時津

至諫早

至三重

至時津

至諫早

至三重

至時津

表彰実行委員会

委員長
伊藤一長
(長崎市長)

委員

野崎元治
(長崎商工会議所会頭)

高比良昇
(長崎商工会議所専務理事)

林田武
(長崎商工会議所建設部会長)

宗保孝
(長崎商工会議所青年部会長)

橋本博
(長崎市都市整備部長)

秋窪幹男
(社団法人長崎県建設業協会長崎中央支部支部長)

池田宗次
(西部ガス株式会社長崎事業本部常務取締役長崎事業本部長)

扇道徳
(社団法人長崎県測量設計業協会会長)

清水毅志
(日本電信電話株式会社長崎支店支店長)

谷村博志
(長崎市管工業協同組合理事長)

徳住一郎
(長崎県電気工事業工業組合長崎支部支部長)

永田朝治
(社団法人長崎県建築士会長崎支部支部長)

中村諭
(社団法人長崎県建設業協会長崎支部支部長)

松本利之
(長崎市造園建設業協同組合理事長)

前田昌三
(九州電力株式会社長崎支店支店長)

吉原殖男
(社団法人長崎県建築士事務所協会長崎支部支部長)

監事

宮崎應男
(長崎商工会議所理事)

遠藤嗣夫
(長崎市都市整備部宅地開発指導課長)

主催

長崎市

長崎商工会議所

長崎商工会議所青年部

協賛

社団法人長崎県建設業協会長崎中央支部

西部ガス株式会社長崎事業本部

社団法人長崎県測量設計業協会

日本電信電話株式会社長崎支店

長崎市管工業協同組合

長崎県電気工事業工業組合長崎支部

社団法人長崎県建築士会長崎支部

社団法人長崎県建設業協会長崎支部

長崎市造園建設業協同組合

九州電力株式会社長崎支店

社団法人長崎県建築士事務所協会長崎支部

(順不同)

後援

NHK長崎放送局

株式会社エフエム長崎

株式会社テレビ長崎

株式会社長崎国際テレビ

株式会社長崎新聞社

長崎文化放送株式会社

長崎放送株式会社(50音順)



長崎市都市景観賞表彰実行委員会